



もりやす・あゆみ 認定NPO法人コクレオの森副代表理事。箕面こどもの森学園の前身「わくわく子ども学校」にわが子が入学したのを機に自身もスタッフに。現在、認定子育てHATマイスター、メンタルファウンデーション認定コーチとして、子育て支援活動やコミュニケーション講座も行っている。
<https://cokreono-mori.com/>

お話し 守安あゆみさん（認定NPO法人コクレオの森副代表理事）
 写真提供*箕面こどもの森学園

「こんな学校、あったらいいな」を実現した学校から
 シュタイナー園、モンテッソーリ園、森のようちえん……
 「園」にはたくさんさんのバリエーションがありますが
 「学校」となると、なかなかそうはいかず……。
 「おしえる教育」から「自ら学ぶ教育」へシフトが求められる
 いま、全国にさがげ十数年前からそれを実行している
 オルタナティブスクール「箕面こどもの森学園」。
 行われていたのは「子どもが主役」の、未来の教育でした。

子どもの場を贈る 学びの場を贈る

「こんな学校、あったらいいな」を実現した学校から

子どもへの
 おくりもの⑦

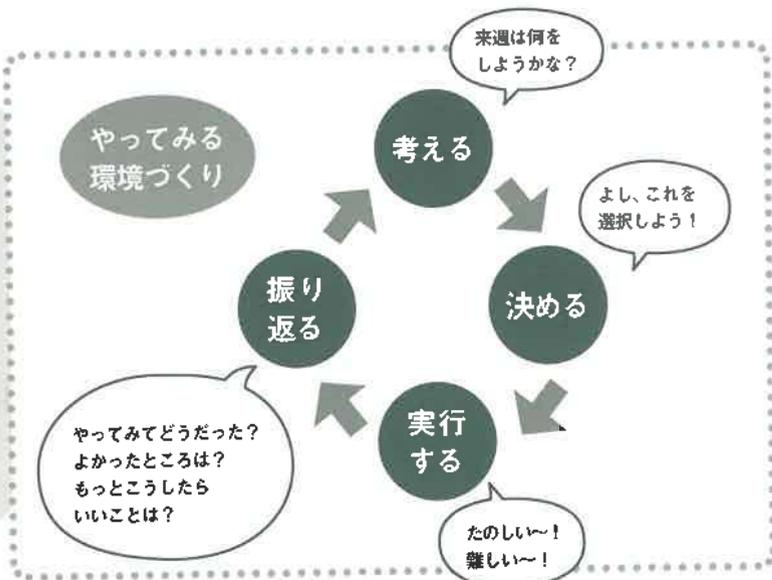


「箕面こどもの森学園」って こんな学校です！

一人ひとりの個性を尊重し、民主的に生きる市民を育むことを目的としたオルタナティブスクール。フレネ教育やイエナプラン教育（P42参照）をベースに、ESD（持続可能な未来をつくる教育）を行っています。かつて大学に勤務していた現学園長・辻正矩さんが、学ぶ意欲が低い学生らの姿に疑問を抱き「大阪に新しい学校を創る会」を設立。わが子の不登校に悩む親や日本の教育に疑問をもつひとたちが自然と集まり、市民の手で学校をつくりました。現在、小学1年生～中学3年生まで、約65名が在籍中。

こどもの森の主体的な学びのサイクル

自分で決めた学習計画に沿って、自分でやることを決めて、学習し、振り返りを行う……。『子どもが主役』がモットーのこどもの森では、『やってみる環境』が保障され、生徒が自ら学ぶスタイルが定着しています。



とことん話し合い みんなで決める

毎週木曜日に全校集会が行われ、子どもたちもスタッフも一緒になって、学校行事やルールなどについて話し合います。司会や記録係などを子どもたちが担当し、何かを決めるときは、多数決によらずに、意見が一致するまでとことん話し合います。このほかに、小学部・中学部集会もあります。

「違い」があるのが当たり前
「子どもが学びの主人公」がモットーの、箕面こどもの森学園（以下、こどもの森）。ここでは一人ひとりの学びが尊重され、時間割も子ども自身が決め、それぞれのペースで学習を進めます。3学年合同の異年齢クラスで編成され、話し合いや調べ学習といった体験授業が中心です。

もうひとつの柱が「民主的に生きる市民を育て」こと。ここでは、学校のルールなども子どもたちとスタッフが話し合って決めます。そのせいか、ここには「話し合いができる子」が多い、と守安あゆみさん。かつてわが子を通わせた保護者の立場からスタッフになったひとりです。

「話し合いの基本は、『自分もひと大切にすること。自分の意見や気持ち伝えることだけでなく、相手の話を聞き、理解を深めることも大事。ミーティングでは、全員が納

箕面こどもの森学園 小学部の暮らしから 何をどう学ぶかは、自分で決めます

箕面こどもの森学園では、下記のような大枠の時間割は設定されていますが、学習内容や学習方法は子どもたち次第。担当スタッフに相談しながら、学習ペースも自分で決めて、実行しています。

小学校の時間割

	月	火	水	木	金
9:00~9:20	ハッピータイム (みんなに聞いてほしいことを自由に話す時間)				
9:20~10:00	ことば・かず	ことば・かず	ことば・かず	ことば・かず	ことば・かず
10:10~10:50	ことば共同	ことば共同	ことば共同	テーマ	学習計画
11:00~11:40	スクールワーク	テーマ	プロジェクト/選択		
11:40~13:00	昼休み		ミーティング・掃除	昼休み	
13:00~13:55	プロジェクト/選択	プロジェクト/選択		全校集会	プロジェクト
14:00~14:40				プロジェクト/選択	
14:40~15:00	ミーティング・掃除			ミーティング・掃除	

ことば・かず

生活するうえで必要なことば（国語）や、かず（算数）といった基礎学習の時間。子ども自身が決めた学習計画に沿って個別学習を行います。



プロジェクト

それぞれがやりたいと思うテーマを追求する学習。子ども自身が学習計画を立て、準備し、実行します。同じことをやりたい仲間がいれば、共同で学習を進めることも。



テーマ

学期ごとに設定された学習テーマを追求する時間。テーマに関連する施設へ見学に行ったり、その分野の専門家に話を聞くなどしながら学びます。調べた結果を文章や図表にまとめたり、劇をつくったりして、みんなの前で発表します。



選択プログラム

「英語」、「しぜん」、「からだづくり」、「音楽」、「絵をかこう」など、スタッフが提案する選択制の学習プログラムで、グループで学習します。プログラムの内容には、選択する子どもの希望や意見が尊重されます。

*オルタナティブスクールとは…現在の公教育とは異なる方針・理念で運営されている学校の総称。校舎要件や人数などの理由で、法律上「学校」として認可されていないため、オルタナティブ・スクールの子どもたちは学籍を地元の公立学校に置いたまま通学することになります。

日本にあるオルタナティブ スクールの一例

● サドベリースクール

米国ボストンの「サドベリー・バレー・スクール」の理念に基づく。決まったカリキュラムやテストなどもなく、それぞれが自分の好きなことを学ぶ。クラスもなく、担任などもおらず、子どもと大人で民主的に自治運営を行っていることから「デモクラティックスクール」とも呼ばれる。「東京サドベリースクール」(東京都)をはじめ各地に点在。

● サマーヒル

A・S・ニールが創立した英国「サマーヒル・スクール」の理念に基づく。学習には学年の隔てがなく、学びたいことを各教科の担任へ伝え、1週間の時間割がその子に合わせて構成される。「スクール・ミーティング」が定期的に行われ、子どもたちと大人が真剣に話し合い、多数決でものごとが決められる。この考えは「きのくに子どもの村学園」(和歌山県)などで取り入れられている。

● シュタイナー教育

オーストリアの哲学者ルドルフ・シュタイナーの人間学(人間は自然や宇宙との関係の中にあるという考え)に基づく。教育そのものを芸術と捉え、エポック授業という独自のカリキュラムがある。12年の一環教育で、入学から8年間は同じ教師が担任する。「シュタイナー学園」(神奈川県)をはじめ各地に点在。シュタイナー教育を取り入れた園も全国に広まっている。

● フレネ教育

フランスの教育者セレスタン・フレネの考えに基づく。子ども主体の教育をモットーに、「レッスン」ではない生活の延長にある教育を目指す。異年齢クラスで学び、自分で決めた活動計画表に沿って学習を進め、評価も自分で行う。自由作文や印刷、学校間通信やサークル対話などを通じて、子どもの表現の場をつくることに力を入れている。今回登場した「箕面こどもの森学園」(大阪府)でもこの考え方を一部取り入れている。

● イエナプラン

ドイツ・イエナ大学の教授だったベーター・ベーターゼンがはじめた教育モデル。科目ごとの時間割はなく、学びに必要な「会話」「あそび」「仕事(学習)」「催し」の4つの活動を循環させながら、異年齢クラスで学習を進めていく。イエナプラン教育を行う学校に「大日向小学校」(長野県)があるほか、今回登場した「箕面こどもの森学園」(大阪府)でも一部取り入れている。

*その他のオルタナティブ教育校、多様な学びを提供している場については、下記のサイトなどで検索できます。
「多様な学びのカタログサイト マナカタ」
<https://mana-cata.jp/>

*認定NPO法人コクレオの森が行っている「サスティナブルな学びプラットフォーム「サスマナ」」では、学びの場づくりの支援を行っています。<https://cokreono-mori.com/mirainomori/gakoutsukuri.html#sasumana>

得するまでとことん話し合っただけです」
また、子どもたちはふだんから
個々人の考えが大事にされている
ため、自然と相手に対しても受容的
な子が多いのだと続けます。
「大人でも感心するくらい『待てる
子』が多いんです。たとえば、発言
する場で沈黙が長い子がいても、誰
もせかさずに待っています。ほかと

違っていることに対して、それを指
摘したり、からかう子もいません」
現在、不登校児が増え続けている
背景にも、こうした「違い」を認め
ない、画一的な教育システムが一因
としてあるのでは、と守安さん。
「従来の管理教育では、学校の規
定に従うことが美德とされていま
すが、本来はその子によって学び方

もいろいろでいいし、学ぶペースも
それぞれでいい。ここでは学び方が
その子自身に任されているというこ
と自体が、「二人ひとり違っていい」
というメッセージになっています。
手渡したいのは「自分を大切にす
る」こと。それは自分の人生を自分で
決められるということ。これさえあ
ればこの先も安心です」(守安さん)



「小さな学校の
時代がやってくる」
辻正矩/著
藤地書館・刊
1,760円

読者
プレゼント!

箕面こどもの森学園
学園長・辻正矩さん
著の最新刊を抽選で
3名様にプレゼント!
巻末の読者アンケート
ハガキまたはウェブ
アンケートにてご応募
ください。